

はじめに

「日本語教育センターシンポジウム」は今回で3回目の開催となる。今回は、昨年度のシンポジウムの成果を受けて「大学の国際化と大学評価—日本語教育プログラムの貢献をどう評価するか」というテーマで企画した。

本学の日本語教育センターは全学共通組織で、運営は学部、全学共通カリキュラム運営センター、国際センターの視点を入れて行われており、大学全体の国際化に有機的に機能していくことが求められている。

私たちは、この機能を十全に果たすために、本学の日本語教育の内実そのものを良くしていく努力をすると同時に、日本語教育センターの特徴や可能性、課題を発信し、学内で情報を共有してもらい、そして日本語教育センターを活用してもらい、サポートしてもらい循環を作っていくことを考えている。このような考えから、第1回目には、大学での留学生の受け入れの意義や大学の日本語教育の意義と役割について議論を行い、第2回目では、海外からの視点を取り入れながら日本語教育センターの意義と可能性を考えると同時に、大学の国際化の中でプログラム評価を取り入れることの必要性和可能性を議論してきた。この経緯を踏まえて今回は、より具体的な話として、私たちの日々の実践と模索を、日本語教育センターが向かうべき方向の中で位置づけ、各センター員が個々の取り組みに、活動の意義を見出して向き合うための方策としてのプログラム評価を取り上げた。

シンポジウムは2部構成とし、第1部の講演は、長尾眞文氏（東京大学大学院 新領域創成科学研究科環境学研究室サステナビリティ学 グローバルリーダー養成大学院プログラム特任教授）に「大学の国際化と日本語教育プログラムの役割—評価の視点から—」という題目でお話しいただいた。つづいて第2部の指定討論は、学内の日本語教育専門家の立場から池田伸子氏（立教大学異文化コミュニケーション学部長、前日本語教育センター長）に、そして学外の日本語教育専門家でありプログラム評価専門家の立場から小澤伊久美氏（国際基督教大学日本語教育課程 課程准教授）に登壇していただき、それぞれの問題提起の後、フロアとの質疑応答という形でディスカッションを行った。

当日は、学内の教職員をはじめ、学生の他に、学外の方々、40名強の参加があった。特に他機関からの来場者が多く、大学のグローバル化の中での日本語教

2 はじめに

育についての関心が高まっていることをあらためて強く感じた機会となった。その中で、より柔軟な評価の活用について発信を行い、議論を深めたことに、今回のシンポジウムの意義があると言える。充実した講演内容とともに、活発に議論が交わされた全体討議の詳細もぜひお読みいただきたい。

最後に、今回のシンポジウム開催にご登壇くださった長尾真文先生、小澤伊久美先生、池田伸子先生に厚くお礼申し上げたい。また、企画・準備段階から本報告書をまとめるまでご尽力くださった日本語教育センターの皆様にも心から感謝の意を表したい。

日本語教育センター長／異文化コミュニケーション学部教授

丸山 千歌